

『専修ビジネス・レビュー』

創刊のことば



専修大学商学研究所所長 上田和勇

専修大学商学研究所は商学部が設置された1965（昭和40）年に設立され、2006（平成18）年には設立40周年を迎えることになった。これも、これまで研究所活動にご協力いただいた大学のバックアップはもとより、歴代の所長、運営委員、所員のご努力、また学外参加者のご協力のおかげであり、まずは感謝の意を表したい。

研究所活動のこれまでの成果は、プロジェクトチームによる研究が開始される前までは、主に刊行物としての『所報』、『年報』という形で発行されてきた。1976年刊行の『年報』第1号をひも解いてみると、研究所発足当初は『所報』が年2回の刊行であったが、研究活動の拡充等により研究論文の収録機会を増やすため、また商学部創設10周年の節目でもあったため、『所報』に加え、1976年に『年報』第1号が刊行された経緯が記されている。研究所設立後、『年報』の刊行まで約10年間の所員のご努力があったわけである。現在、『所報』は年間5号前後の刊行になり、これまで通算、第37巻第2号まで刊行されている。『年報』は第30号が既刊され、充実した研究活動の証となっている。

近年の商学研究所における活動の特徴は、学内の所員を中心としながらも、学外関係者も参加しているプロジェクトチームによる産学協同的研究、地域と大学との共生視点からの研究そして国際協定にもとづくグローバルな視点からの国際協同研究といえる。プロジェクトチームによる協同研究の成果は『叢書』として既に4巻が公刊されており、これまでの『所報』、『年報』に加え、新たな研究成果の公表の場をつくっている。

商学研究所設立11年後に刊行された『年報』は、その後も順調に公刊されてきたが、近年のグローバルでローカルな研究環境への適合、社会への研究所のプレゼンスの向上、社会との双方向の情報共有の充実化のため、運営委員会において検討を重ね、幸い所員一同の賛同を得て、この度、装いを新たに『専修ビジネスレビュー』として第1号を上程することになった。商学研究所設立40周年を迎えるにあたり、商学研究所の将来の持続的な発展を期待しうるものとして、所員一同とともに同慶に堪えないところである。

ここに『専修ビジネスレビュー』創刊にあたり、多くの方々への尽力に感謝するとともに、この創刊が社会への価値ある情報の発信になることを期待したい。

（2006年1月17日）